

阿部地先のトコブシとサザエの漁獲サイズと 個体成長の推定—— V

小島 博・森 啓介

前年度に引き続いて阿部漁業協同組合に水揚げされたトコブシ(方言ナガラコ)とサザエの漁獲サイズを測定した。この調査はトコブシとサザエ資源の増殖並びに保護上の問題点を明らかにすることを目的としている。

材料と方法

由岐町阿部地先で漁獲されたトコブシの殻長、サザエの殻高を測定した。測定は昭和60年7月24日から9月20日の間に、トコブシは6回、サザエは7回それぞれ実施した。1回の測定数はトコブシが120~182個、総数813個、サザエは1回の測定数が108~140個、総数860個であった。

2 結 果

トコブシの測定結果は図1に示すとおりであった。殻長組成のモードは、7月下旬から8月上旬にかけて50~65mm、8月中旬に65~70mm、8月下旬には45~60mm、9月上旬に40~55mm、9月中旬の終漁期に60~75mmと変化した。漁期を通して見るとモードは50~55mmで、平均殻長57mmであった。また、殻長45~70mmの範囲に71%のトコブシが含まれていた。

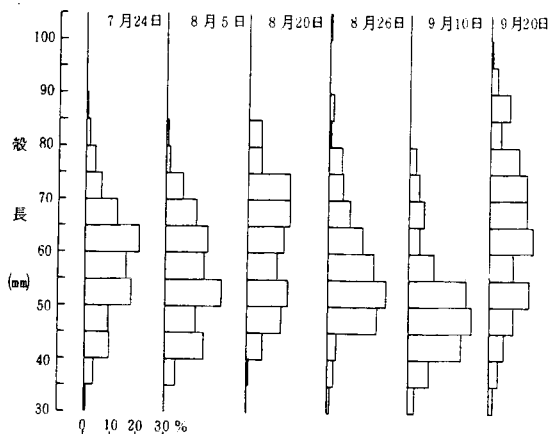


図1 漁獲トコブシの殻長組成(由岐町阿部)

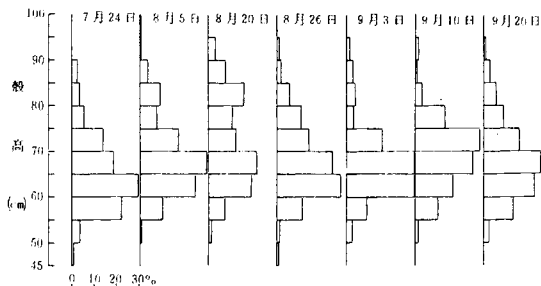


図2 漁獲サザエの殻高組成(由岐町阿部)

サザエの測定結果は図2に示すとおりであった。殻高組成のモードは、7月下旬に60~65mm、8月上~中旬に65~70mm、8月下旬~9月上旬に60~70mm、9月中旬に70~75mm、9月下旬に65~70mmと変化した。また、8月上~中旬には80~85mmにも低い山が見られた。漁期を通してのモードは60~70mmで、平均殻高69mmであった。殻高55~75mmの範囲に77%が含まれていた。

3 考 察

本年度の漁獲トコブシの殻長組成の特徴は殻長範囲が30~100mmと広いこと、56年以降大型化していた平均殻長が前年度より6mm小さくなり、57mmとなった点である。漁獲量はここ10年間で最高の6.8トンであった。この理由として56年以降に漁獲対象となったなかに卓越年級群が含まれ、今年度には殻長10cm前後となったことと、45~55mmのトコブシが32%を占め、新しい加入群の水準が高かったことが考えられる。

本年度の漁獲サザエの平均殻高は69mmで、前年度より4mm小型化した。70mm以上のものが37%(前年度60%)含まれていた。

また、60~70mmのものが49%を占めていた。サザエ漁獲量は57年に4.4トンにまで減少したが、その後徐々に増加し、本年度は16.4トンまで回復した。58年以降、毎年の加入量が増加しているものと考えられる。